

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)	良くなる	旅行代理店（支店長）	・東京スカイツリー関係は2、3か月後、冬から春の売り出しが始まる。その結果、今年の動きが止まった団体又は法人の利用について、年度末を含めてかなりの受注又は問い合わせが予想されるため、良くなる。
		観光名所（職員）	・6月は梅雨の季節でもあり、来客数は通年少なくなるが、2、3か月すると梅雨も終わり夏休みに入るため、旅客が大勢来ることを期待している。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕 （経理担当）	・単価が上がり気味であり、消費税増税前の駆け込み需要が考えられるため、やや良くなる。
		一般小売店〔家電〕 （経営者）	・夏に向かって一般の節電意識が高まってきており、それが新商品への切り替えになっていくのではないかと思うため、やや良くなる。
		一般小売店〔祭用品〕 （経営者）	・夏本番で盛大な盛り上がり期待して、やや良くなる。
		百貨店（営業企画担当）	・クリアランスの2段階実施や、開店20周年企画など特別対策の盛り込みにより、前年より売上回復を見込んでいる。
		コンビニ（経営者）	・年末まで続くかどうかということは疑問だが、季節的な要因が多分にあり、温度が上がると客数も増えるため、やや良くなる。
		コンビニ（商品開発担当）	・期待値である。
		衣料品専門店（経営者）	・消費者の購買意欲が感じられるため、今後に期待したい。
		衣料品専門店（店長）	・気温の上昇と市場のバーゲン需要で活発化し、来客数も増える。
		乗用車販売店（販売担当）	・東日本大震災の特需が思ったよりもまだ大きく出ていない。今後の政府の予算の取組や実際に計画が実行されることにより、復興需要で若干景気が良くなるのではないかという期待は持っているが、車両については低公害車普及促進対策補助金が底を突くため、一時的に車の買い控えとなり、車自体は売れない。そのため、あくまでも復興需要の中での期待値ということで、やや良くなる。
		その他小売〔ゲーム〕 （開発戦略担当）	・新型ハードの発売で、国内携帯機市場を中心にもう一段盛り上がり期待できる。
		一般レストラン（経営者）	・空き店舗の空室率は下がっているようである。飲食店の割合が増えているため、やや良くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊は団体利用が減少して個人利用が多くなってきているが、インターネットでの、間際の安い料金が出るのを待っている様子が見られる。周辺に新規の移転企業が少しずつあるため、今後少しずつ増えそうである。先の法人利用宴席案件は、前年どおり受注できている。前年、東日本大震災で春から秋へ移動したため今年はない案件に変わるものも受注できしており、前年並みである。レストランは土日の個人利用予約は前年並みに受注できしており、ランチの婦人利用に急な変化がなければ、少しは良くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・東京スカイツリーの開業で客の流れが変わってきているため、やや良くなる。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注状況が前年比150%で推移しているため、やや良くなる。
		ゴルフ場（支配人）	・既に秋口の予約状況が順調に推移している。
		その他レジャー施設 〔アミューズメント〕 （店長）	・若干だが一部の客単価が増加傾向にあり、全体に波及している動きが感じられているため、やや良くなる。
住宅販売会社（従業員）	・現在はあまり良い状況ではないが、弾みが付けば一気に調子が良くなる。ただし、しっかりと地域密着業者へアプローチをしての結果によるため、7月の動きが今後を大きく左右する。		
住宅販売会社（従業員）	・マンション販売における、消費税増税前の駆け込み需要が期待できる。		
その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・欧州の信用不安はなかなか決着しないと思うが、消費税増税が決定すれば、いろいろな業界でやや動きが出てくると少し期待して、やや良くなる。逆に消費税増税が決まらない場合は、より停滞感が増す。		

変わらない

商店街（代表者）	・総体的に店がシャッター通りになる傾向が非常に多い。このところ市内を見て回っても、空き店舗の件数が増えていく一方であり、入る店は大体サービス業が多い。接骨医など、商店街等には影響が少ないのではないかと思われ、サービスの人数が限られている業種であるため、商店が非常に困っている状況は変わらない。
商店街（代表者）	・景気全般の上向き材料が見当たらない。
商店街（代表者）	・商店街を取り巻く環境から、店の前を歩く通行量が若干減っている。買物を確定して買物袋を持っている客が若干少なく、やはり単価が下がっていることもある。今後も景気回復はなかなか難しい。
一般小売店〔和菓子〕 （経営者）	・これから暑さが厳しくなり、台風等の上陸が今年は多いという話もあるため、天候の影響が出てくる。
一般小売店〔家電〕 （経理担当）	・夏の暑さにもよるが、エアコン、冷蔵庫などがそこそこ動く。性能を説明し、良い商品売りたい。
一般小売店〔文房具〕 （経営者）	・現在の状態であれば前年より多少プラスになっていくと考えているが、天候にもよる。
一般小売店〔印章〕 （経営者）	・すべて政治が悪いとは思わないし、個々の店や会社は努力もしていると思うが、環境としては購買意欲の低下が当分続きそうである。
一般小売店〔家具〕 （経営者）	・これから先、景気が良くなるような感じはしない。単価が少し高い商品も買ってもらえるようになってきたため多少は期待しているが、まず変わらない。
一般小売店〔文具〕 （販売企画担当）	・案件数はないわけではないが、今後2、3か月は大きな案件等があまり見えてきていないため、あまり失点はないものの、変わらない。
百貨店（売場主任）	・消費控えの関心度はますます高まり、夏物クリアランス以降も買い増しにはつながらない。
百貨店（総務担当）	・依然として、国内にとどまらず景気が好転する明るい兆しが見えてこない。
百貨店（総務担当）	・消費に回る状況ではない。今後も不透明な状況で、厳しさが続く。
百貨店（総務担当）	・欧州の信用不安の不透明感はやや払しょくされたとはいうものの、日本国内ではこれから電気料金の値上げや消費税増税の議論と様々な不安定要因もあるため、これから上がっていくとはなかなか考えにくい。今年のクリアランスについても後ろ倒しにすることで、決して消費を強くけん引する材料にはならない。
百貨店（営業担当）	・婦人服、服飾雑貨を始め、紳士服、子供服の衣料アイテムの動きが悪いが、景気低迷というより天候不順の影響によるものと思っている。食品関連は、物産展の動きは良かったものの、中元ギフトが数年来の傾向どおり動きが悪いため、今後も変わらない。
百貨店（営業担当）	・好転する題材が全く見えない。サマーセールも前年に比べパワーダウンすることが確実視されているため、夏から秋への景気回復はない。
百貨店（営業企画担当）	・天候の影響もあるが、全体的に前年比をベースに推移する。消費税関連の報道も、現状は大きな影響はないようである。
百貨店（副店長）	・欧州の信用不安、中東紛争、消費税増税の議論などによる消費者心理の冷え込みは変わらない。
スーパー（経営者）	・今後もやはり、このあまり良くない状況が続く。個別事情では、当社の近くに競合店ができるため、少し影響を受けると予想されるが、まだ分からない。また、天候に関しても、悪ければ客数が減ってその分客単価は上がるが、売上の的には厳しい状況になる。天候の状況はこれからなのでまだ予測不能だが、全体的にはあまり良くならない。
スーパー（店長）	・3か月後になっても現在の政治の混迷は変わらないという部分で、客の中で将来に希望が持てないと、当店のような総合スーパーでは売上が上がってこない。季節にもよるが、現状とほぼ変わらない。
スーパー（店長）	・これから夏に向けてお中元や夏休みの行楽など、食生活以外の部分での出費がある程度見込まれるため、普段の食生活を今まで以上に切り詰める可能性はあると思うが、しばらくは同じような状況が続く。
スーパー（店員）	・政治不安や消費税増税を踏まえた買い控えが見られる。また、競合店の中でも同一商品などのグレードを下げた価格訴求が多く見られる状況は変わらない。

スーパー（総務担当）	・夏に向けての節電等の動きは昨年と同様だろうが、ボーナスが増えるわけでもなく、給料、所得が上がるわけでもないなかで、新たな消費を仮想できるようなものが見当たらず、下げ止まったままの状況になる。
スーパー（営業担当）	・将来に対する不安が景気を押しとどめていることが非常に大きな要件であると思うため、変わらない。
スーパー（仕入担当）	・節電の夏、消費税増税の議論、電気料金値上げ等、家計をひっ迫する要素が多く、消費は回復しない。
スーパー（仕入担当）	・客数、販売点数は引き続き微増傾向にあるが、単価が前年比で5%以上落ちているため、点数でカバーできない状況が続く。
コンビニ（経営者）	・今年の夏は相当暑いという予測もあるため、飲料関係などが総体的に出るのではないかと考え、変わらない。
コンビニ（経営者）	・安定した売上の伸びが続いているが、特段上昇の兆しはなく、現在の買物傾向が続く。
コンビニ（経営者）	・消費税増税法案が衆議院を通過した。小売業としてはそれに対する客の反応が大変心配である。福祉やこの国の財政を維持するという部分は十分分かるが、本当にそこが良くなるのか。負担に対して希望が見えてくるのかと、そのような感じがしている。客もそういった話をしていたり、あるいは顔色とか様子を見るとそのような不安を感じているようであるため、変わらない。
コンビニ（店長）	・生活することさえだんだん厳しくなっている客が見られるため、かなり厳しくなる。
コンビニ（商品開発担当）	・直近で客数増の傾向もなく、先行きも客数増につながるような見込みが少ないため、変わらない。
衣料品専門店（経営者）	・昨年は電力不足等で清涼グッズが飛ぶように売れ、7、8月は売上が急速に伸びたが、今年は売行きが悪く、あまり期待できない。そのかわりに外出用ファッションが少し良くなっているため、昨年と同じくらいの成績となる。
家電量販店（統括）	・オリンピックを7月に控えて、テレビの需要が盛り上がらない。また、計画停電のある地方での消費意欲が下がる。
乗用車販売店（経営者）	・整備は順調に入っているものの、せっかくエコカー補助金を実施しているが7月で終了するという噂もあり、前年比2割減となっている状況は変わらない。
乗用車販売店（渉外担当）	・エコカー補助金は早ければ7月末で終了するが、免税、減税の継続や新型車の投入が続き、エコカーの受注残も多いため、楽観視はしていないが、落ち込みは以前よりは小幅で推移する。
乗用車販売店（販売担当）	・エコカー補助金の枠が限られているためか、駆け込み受注が多い。また、エコカー減税も継続中で客の動きも活発であり、2、3か月前同様、受注はまだまだ伸びると思うため、変わらない。
乗用車販売店（総務担当）	・今後、遠い先のことを考えると消費税増税に伴う消費の低下が大問題となるが、エコカー補助金制度が終わってしまうなか、新車投入ができ、辛うじて台数確保並びに収益確保ができる。
住関連専門店（店長）	・特に大きく景気回復するような政治局面がない。
その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・販売量を伸ばすべく、様々な販売促進策を行っている。天気と気温が売上を大きく左右するので、真夏の暑さが気になる。
その他専門店〔雑貨〕（従業員）	・今後も出店は続き、また夏休みなどで旅行等の需要も増えるため、景気が上向きの状況は変わらない。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ボーナス商戦が始まる時期ではあるが、ボーナスの使い道については住宅ローンや貯金にするとの声が多く、日常消費に回るほどゆとりがない現状から、変わらない。
一般レストラン（経営者）	・消費税増税の議論、相変わらずの円高、欧州の信用不安、政治に対しての不信感と、悪い話はあるが景気を良くする話はない。これでは良くなるわけがない。
一般レストラン（経営者）	・8月はニッパチと言って売上の落ち込む月であるため、恐らく少し落ち込むが、9月で少し回復するため、今とあまり変わらない。
一般レストラン（店長）	・今はとにかく最低で、さらに底が割れたということで、これ以上悪くなったらやっつけいけない。閉めるしかないという、本当にぎりぎりのところに来ているため、これが続いて欲しくない。これから少し悪い状態が続いていくが、そこから上がってくれないと、本当に店を閉店することになる。

一般レストラン（スタッフ）	・当店はしっかりとした品質の良い物をしっかりとした作りで出しているため、基本的に掛かるものは掛かる。安い100円の同業他店とは違って客も味を分かっているが、他店はどこも客が入っていないため、景気は悪い。例えば買物に行っても、周りの買った物を見るとほんの少ししか買っておらず、どうなってしまうのかと思う。2、3か月先は良いとは思えず、これで消費税が増税となったらきっと大変だろうが、仕方がない。
都市型ホテル（統括）	・政界の動きから、先行き良い方向に向くとは到底思えない。
旅行代理店（経営者）	・国政が今どちらのほうに向いているのか、政府自体が右往左往している状態である。景気は、消費税増税がここで決断されてしまうと2、3年後実施ということで、皆がそれに備えてあまり出歩くのを控えてしまう面が時々見られるため、少し難しくなる。
タクシー運転手	・株主総会後のご苦労さん会というか、いつもは株主総会が終わるとかなり客の需要があるが、今年はあまりそういう傾向が見られない。今後もあまり良い方向にいくとは思えない。
タクシー運転手	・国民の不安がますます積もっている。どの方向に向かって進もうとしているかが全く見えない。不安をあおっているだけなのか、ますます心配である。
タクシー（団体役員）	・景気が回復する要素が見当たらない、特にタクシー利用客は、必要最小限の時しか利用しない時期がしばらく続く。
通信会社（経営者）	・ケーブルテレビは昨年の地上デジタル放送特需後、停滞しているため、変わらない。
通信会社（経営者）	・夏のオリンピックは開催予定だが、昨年7月のテレビの買換えが一服したまま、反発インパクトは弱そうである。インターネット、電話は堅調に推移する。
通信会社（営業担当）	・景気全体への不透明感が強く、積極的な購買意欲が回復してくるまでにはまだ時間が掛かる。
通信会社（管理担当）	・一進一退の様子見状況に大きな変化はない。夏場の販売は例年減少するが、夏前の増加がない分、ほぼ横ばいとなる。
通信会社（営業担当）	・消費税増税の議論や年金受給の不透明さ、そして給与が増えない等の将来の不安で、客が消費を控えていると感じる状況は変わらない。
通信会社（局長）	・オリンピック効果で一部の景気向上は見込めるものの、あくまで一過性であるため、中期的には景気が上向き要素は少ない。
通信会社（営業担当）	・他社とのキャンペーン合戦の様相を呈しており、引き続き一進一退が続く。
通信会社（局長）	・消費税増税の議論の行方を慎重に見守ると考えられるため、変わらない。
通信会社（支店長）	・キャッシュバック、端末値引き等の競争が激化し、販売店の収益を圧迫しているような状況は変わらない。
通信会社（営業担当）	・消費税増税などのマイナス要素はあっても、景気が改善される要素が見当たらない。
パチンコ店（経営者）	・衆議院で消費税増税法案が可決されたため、本当は厳しくやや悪くなる可能性があるかと思ったが、幾らか今のレベルは保ってほしいという期待も込めて、変わらない。客はあまり伸びてこないが、それほど衰退もせず、変わらない。
その他レジャー施設 [スポーツ施設]（支配人）	・最近の消費が上がっていないばかりか、先行きに不安を感じる状況は変わらない。
その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・前年の東日本大震災の影響による特需が一巡し、前年比で見ると悪い状況が続いている。今後は欧州の信用不安等、外的な不安要因が多いため、楽観できない状況である。
その他レジャー施設 （経営企画担当）	・年間の最繁忙期となる夏季に当たるが、天候の要因が非常に大きく、変わらない。
設計事務所（所長）	・これからも耐震改修の仕事が主体になると思うが、特に昨年の東日本大震災以降、県を始め市町村から今年になって一気に仕事が出ているため、忙しい状況である。しかし、民間がなかなか出ないため、これからは民間に期待している。
設計事務所（職員）	・予想される大震災への備えの動きが活発で、建築発注件数は上向きだが、景気動向までは左右しないようである。
住宅販売会社（従業員）	・ユーザーは消費税増税の議論の関係で状況変化を見据えている感じがあり、商談時の意思決定が鈍くなっている状況は変わらない。

	住宅販売会社（従業員）	・展示場や現場見学会の来場者、敷地調査件数共に横ばいの状況が続いているため、今後の戸建住宅の受注状況に変化はない。
	住宅販売会社（従業員）	・来場者数があまり変わらない。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・国内政治に大きな変化が起こり、消費者のマインドを押し上げる要因が出てくれば少しは期待ができるかもしれないが、欧州の信用不安から来る株価低迷、都心の大型商業施設の影響など、当地域にとってはマイナス要因が幾つか点在しているため、やや悪くなる。
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・消費税増税の議論など、社会のムードが非常に暗い状態であるため、やや悪くなる。
	一般小売店〔靴・履物〕（店長）	・消費税が上がるということは大変なことであり、当店なども上がった場合、廃業を考えている。また、客自体も、所得の良い人はいいのだろうが、低い人は本当にこれから手をこまねくと思う。景気が良くなるという雰囲気全くない。
	一般小売店〔茶〕（営業担当）	・お茶の葉に対する放射性物質も少しずつ影響がなくなってきたとはいえ、これからの暑さ対策や省エネ対策によって自動給茶機の使用制限やタイマーオフによる使用制限でお茶を飲む絶対数が減り、今年の夏もせん茶の売行きは先行きが暗い。
	百貨店（広報担当）	・今年は東京スカイツリーなど大型商業施設が多数開業し、消費の動機付け環境は向上している。実際、東京スカイツリー関連は開業1か月で来場者550万人を突破するなど、順調に集客がされている。反面、大手電力会社の実質国有化、原子力発電所の再開、消費税増税法案の衆議院可決、政治の混迷など、中長期的な面では将来の不安材料が多く、消費者心理を勘案すれば、当面の景気はやや低迷する。
	百貨店（営業担当）	・これから節電等によって大きな減産に見舞われる心配のなか、当然ではあるが厳しい状況が続く。また、現金化できる2～3か月後には想像ができない事態も考えられるため、やや悪くなる。
	百貨店（営業担当）	・欧州の信用不安による円高の進行に加え、国内では電気料金の値上げや消費税増税の議論など、景況感の悪化が進む。
	百貨店（営業担当）	・消費税増税法案が衆議院を通過したことにより、消費環境についてはマスコミ報道も含め、極めてネガティブになってくると感じている。増税直前の一時的な盛り上がりは必ず来ると思うが、長いスパンで考えると生活防衛意識がかなり高まる。また、今回セール時期を2週間遅らす影響が今後どのような変化をもたらすのか検証は必要だが、売上面だけを考えればと厳しい状況であることを認識せざるを得ない。
	百貨店（店長）	・消費税増税の議論、株価低迷なども関係していると思うが、将来に対する不安が再燃しているようである。前年は東日本大震災によるマインドの変化が現実に戻ってきた時期だが、先行きはやや悪くなる。
	百貨店（販売管理担当）	・近い将来の消費税増税が現実のものとなり、一気に消費マインドが冷え込む可能性があるため、やや悪くなる。
	コンビニ（経営者）	・先行きが不透明であり、増税や政界の動きに不安定さがあるため、やや悪くなる。
	コンビニ（経営者）	・客数減、単価減、天候がまた不安定であり、先が読めない。
	コンビニ（経営者）	・欧州の信用不安を始め、日本の消費税増税法案の衆議院可決など不安材料が一杯で、消費者もお金を使いにくくなっていくと思うため、やや悪くなる。
	コンビニ（エリア担当）	・たばこを購入する客が離反傾向であるため、やや悪くなる。
衣料品専門店（経営者）	・消費税増税法案が衆議院で可決され、電気料金も上がり、東日本大震災の復興事業も割に動いていない様子で、心理的なプレッシャーによって消費を控える話が聞こえるようになってきているため、あまり期待はできない。	
衣料品専門店（経営者）	・節電の問題でなかなか景気が回復しない。また、いろいろな面の不安が先行しており、なかなか購買意欲に回ってこないため、やや悪くなる。	
衣料品専門店（店長）	・関西、九州の電力供給不足から製品の生産出荷体制の不安が出ており、会社や業界の売上減少が予想されるため、やや悪くなる。	
衣料品専門店（営業担当）	・政治の不安材料、消費税増税や社会保障のほうも明らかにされないまま進んでいる状況や電気料金の値上げなど、明らかに、誰が考えても景気が上がるようには思えない。	

家電量販店（店員）	・これからの経済は、家電量販店の値引き競争により家電業界の不振が続き、経済の圧迫へとつながる。
乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金が終了した後は、反動で車両販売が落ち込む。
乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金の終了により受注は減る。
乗用車販売店（営業担当）	・エコカー補助金が予想以上に早く終了する雰囲気であるため、既に購入を止めるユーザーが増えており、やや悪くなる。
住関連専門店（統括）	・なかなか景気が回復せず、買い控えが続いているのが現状である。それに伴って販売量も大分少なくなり、売上も減少しているため、やや悪くなる。
その他小売〔雑貨卸〕（経営者）	・政治情勢の混迷が大きく左右すると思うため、やや悪くなる。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・関西の計画停電の話もあるし、今月の、特に下旬からの売上の動きが良くないため、やや悪くなる。
高級レストラン（支配人）	・企業あるいは業種によって好不調がはっきり分かれている。また、東日本大震災の復興需要で潤っている企業でも、周囲に配慮してか、あまりお金を使わないようである。したがって全体的には好況とは言えない。夏以降の会合の受注状況も前年を下回っているため、やや悪くなる。
一般レストラン（経営者）	・消費税は増税が見込まれ、ボーナス等はカットと、3か月後も本当に経済が良くない状態が続くため、飲食店等のお金や景気は大変悪くなる。
一般レストラン（経営者）	・電力の問題や消費税増税の議論など、客たちはかなり、直接影響があると見ているようである。その分、将来に備えて財布のひもが若干固くなっていく。
都市型ホテル（スタッフ）	・6月に入って向こう3か月間の問い合わせ件数が減少しており、特に8、9月は元々夏枯れの時期に加えて引き合いも少なく、数字が見通せない状況である。直近の動きに期待したいが、やや悪くなる。
都市型ホテル（スタッフ）	・政局の不安定、消費税増税等、非常に不安定要素が多いため、やや悪くなる。
旅行代理店（従業員）	・国内団体旅行は目標設定人数の90%しか予約が入っていない。既に夏以降の秋口の問い合わせが増えていたため、夏場の需要があまり期待できない。
タクシー運転手	・消費税増税法案が決まるようなので、しばらくの間、消費者の買い控えが起り、景気は悪くなる。
タクシー運転手	・梅雨入りもあまり影響なく、全体として動きが悪い。7月にボーナスが出ても、週末に少し動きがあるとは思いますが、あまり期待できそうもない。少しずつ悪くなっているようである。
通信会社（経営者）	・保守業務の予算縮小が多くなっているため、やや悪くなる。
その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・顧客の消費購買意欲が感じられず、将来に対して期待が持てない感が否めない。顧客の言動にも大きな不安感を感じる話題が見られ、客は敏感に感じ取っているようであり、やや悪くなる。
その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・まだ申込の段階なので分からないが、夏期講習の申込状況の出足が非常に悪い。消費税増税の議論もあるのかもしれないが、前年同時期の申込状況に比べて3割減といったところである。
その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・数か月前から景気が悪い、悪くなるとしているが、もうこれ以上悪くなりようがないのに実際は悪くなっているため、悪いまま変わらないと思うが、やや悪くなる。
設計事務所（所長）	・消費税増税の議論等の問題がどう出るか分からないが、ここ数か月の間は変わらないかやや悪くなる。
設計事務所（所長）	・建設関係について言えば、非常に仕事量が少なく業者が逆に増えていて、ますます低価格競争に拍車がかかっている状況であるため、なかなか景気が上向くということはない。いずれにしても先行きは真っ暗である。
住宅販売会社（従業員）	・前月、今月は景気がやや良かったが、これから暑くなる8、9月は来場者数も販売数も落ち込む。金利や税制面では特に変化はないものの、夏休みを迎えると家族で出掛けたり帰省などによって住宅不動産購入を検討する時間が減ると思われ、景気はやや悪くなる。

	悪くなる	商店街（代表者）	・消費増税法案が衆議院で可決された。駆け込みでどのくらい上がるか疑問である。更に冷え込みが予想され、自助努力では零細はどうしようもないが、残れるように努めるしかなく、心が折れそうである。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	・今月は異常なまでの静かさで来客数、販売量共に前年を大きく割り込んでしまった。福島第一原子力発電所の事故から、一度離れた客はなかなか戻って来てくれないため、悪くなる。
		一般小売店〔食料雑貨〕（経営者）	・オーバーストアが進むため、悪くなる。
		百貨店（総務担当）	・政治経済が全く機能していない。こういう状況の中で消費増税の議論が衆議院で正式に通ってしまっただけで、ますます国民の生活が苦しくなる。デフレスパイラルがますます進むことは間違いない。大恐慌、大不況が来るのではないかと考えている。また、少子高齢化の問題があるため、悪くなる。
		スーパー（店長）	・3か月後の景気は本来ならば良いと答えたいが、8月上旬に競合店が出店するというので、さらに今以上に数字が厳しくなりそうであるため、悪くなる。
		衣料品専門店（営業担当）	・消費増税の議論がなかなか決まらないため、客の財布のひもがきつくなっており、悪くなる。
		その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・消費増税の議論など、世間にマイナス要因が多過ぎるため、悪くなる。
		遊園地（職員）	・消費増税が騒がれるなど、今後景気が良くなる材料が見当たらない。
		ゴルフ場（従業員）	・先行き不透明な経済状況、更に増税と、可処分所得はますます減少し、ゴルフ場等サービス業には更に厳しい状況になる。
		美容室（経営者）	・政治が不安定で、消費増税の問題等も含めて客が買物をせず、非常に控えているような気がするため、悪くなる。
		その他サービス〔フィットネスクラブ〕（マネージャー）	・消費増税の影響で、悪くなる。
	住宅販売会社（経営者）	・今、この時期に消費増税ということになってしまい、政府が景気対策についての手立てを何も考えていない状態では、将来について不安が募り、景気が良くなる見通しは全くない。	
企業 動向 関連 (南関東)	良くなる	—	—
	やや良くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・法人関係が少し上向きになってきている。また、店頭で個人の実印や銀行印を受けているが、1本当たりの単価や客単価がやや上の注文を客がしていると感じるため、やや良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・仕事量が多少増えている。昨年の東日本大震災以来このようなことはなかったが、もう少し何とかかなりそうであり、やや良くなる。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・トラックは6月も含めてここ4か月ほどやや良い。身の回りというと本当に皆、良くないという返事ばかりで良いと言う人は減多にいないが、頑張っていくつもりである。このまま夏休みも終わり、秋口はどうなのかというだけのことであるため、少し良くなっていく。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・第1四半期を終えたが、全国的に販売数量、金額共に前年度を超えているため、やや良くなる。
		建設業（経営者）	・消費増税の議論により駆け込みがありそうなので、やや良くなる。
		建設業（営業担当）	・国会などで消費増税法案の動きが活発になっているなか、取引先の物件内容が大きいほど動きが出ている。また、自動車メーカーなどは海外での設備投資が多くなってきているため、やや良くなる。
		輸送業（経営者）	・良くなるという確約はないが、この調子でいって欲しいという願いを込めて、やや良くなる。
		不動産業（総務担当）	・新規入居を希望するテナントが増えており、これが成約に結び付けば空室率の大幅な改善につながるため、期待を込めて、やや良くなる。
		税理士	・オリンピックが控えているので、そのための消費の影響を期待したい。また衆議院の選挙も間近になる予想で、好景気の戦略を期待する。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・7月に入ればまた持ち直してくると予想しているため、やや良くなる。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・景気が良くなる材料が見当たらない。

繊維工業（従業員）	・円高、株安等で国内の景気は冷え込み、製造業は売上が伸び悩んでいる。国内の景気が向上かない以上、当分は今のよう状態が続く。
出版・印刷・同関連産業（経営者）	・当社の定期物がなくなるという前提で、変わらない。
出版・印刷・同関連産業（経営者）	・役所関係の仕事量も減っており、イベント関係もまだまだ少なく、公共事業関係もなくなってきて、どうにも先が見えない。
出版・印刷・同関連産業（所長）	・住宅エコポイント制度関連の前倒し等で若干の盛り返しを期待するが、大きな変化は望めない。
化学工業（従業員）	・東日本大震災の復興で少し需要が増えそうだが、その兆しはまだ先で、しばらくは現状維持が続く。
プラスチック製品製造業（経営者）	・今、景気が良くならないのは政治の影響が非常に強いと思う。3か月以内には衆議院の総選挙が行われると思うので、その行方によって景気もまた変わってくるため、3か月先の景気はよく分からない。
プラスチック製品製造業（経営者）	・各顧客とも何とか受注のめどは立っているが、新企画がなかなか決まらず、設備投資など次に進めない状態であり、変わらない。
金属製品製造業（経営者）	・日々の受注残が3割減ってきているが、作業に空きが出ていないため、変わらない。
金属製品製造業（経営者）	・開発関係の難しい仕事を積極的に選んで受注するよう心掛けて営業活動をすれば、まだまだ仕事があり、続くようである。
一般機械器具製造業（経営者）	・現在、数が多い物に関しては、自動車関係は外国に持って行かれてしまうことがあるため、当社も月産4万個の物を持って行かれた。これから数の少ない物を寄せ集めてやらなければならない、大変な状態になっている。数の多い物がたまにあっても単価が目茶苦茶といった状態で、弱っている。今後良くなる見通しはあまりない。
電気機械器具製造業（経営者）	・基本的には政治が非常に不安定になっている状態で、景気が良くなる要素は全くない。当業界では展望が出てきていないため、何とか継続することに専念するより仕方がない。
その他製造業〔靴〕（経営者）	・いつもと同様、悪くなるような、あるいは良くなるような大きな要因が見当たらないため、当面は今のままの状況で推移していく。いわゆる安定している状態である。
建設業（経理担当）	・この先も受注を目指す工事については、利益を確保してまでの契約は望めそうにない。東日本大震災の復興絡みで労賃がじわじわ上昇し始めているため、この先利益を出せる工事はますます望めそうにない。
金融業（統括）	・客の資金ニーズが一向に上がってこない部分と合わせて、今後ともニーズが発生しづらい状況にあるため、変わらない。
金融業（従業員）	・今年に入って、製造業における売上減少の声が多くなってきている。また、一部では売上金の回収が遅れるなど、実際に影響が及んでいる企業もある。今後、電気料金の値上げなど外部要因による影響も懸念され、製造業では先行き不透明感を感じている企業先が多いようである。
金融業（渉外・預金担当）	・消費税増税に関する影響によって個人消費が低迷するという、不安視する声が多い。
広告代理店（従業員）	・花火大会が今年はほぼ例年どおりに復活してきている。協賛席の売行きもますますである。
社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。
経営コンサルタント	・良くなる材料がないため、変わらない。
経営コンサルタント	・先般の府省庁版の事業仕分けで、中小企業向け融資の全額保証制度を大幅縮小することが求められた。企業の延命に手を貸しているという指摘である。銀行の貸付担当の話では、融資困難、融資額縮小で、業績不振の中小企業の倒産、廃業などが今後増加するだろう、近く返済期限を迎える企業でも焦げ付く可能性のある企業が少なくない、とのことである。
税理士	・北米での自動車の売上が良くないため、少し伸びていない。新興国、中国を始めとする輸出が堅調で日本はバランスを取っているのだろうが、一番混迷している所は内部にあり、日本の政治である。政治の行き詰まり、混迷がこれほど景気を悪くしている理由の半分である。当然、輸出や円高なども全部あるが、1つにはこの具体的対策を取れない、混迷している政治にある。
その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・夏を迎えて電力調整等の影響で、取引先の顧客数が減ることが考えられる。それに伴って発注量が減ると思うため、今の状態で変わらない。

	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・単価下落傾向がしばらく続く様子である。
	その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・小型のマンションにおけるインターネット環境整備についてオーナーに勧めているが、思ったほどのニーズがなく、今後の需要が見込みにくいいため、変わらない。
やや悪くなる	出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・企業は増税の話題で更に経費の削減、節減をしてくる。発注がなければ仕事のしようがない。
	金属製品製造業（経営者）	・今のこの経済環境では、国内製造業が良くなっていくとは考えられない。大手企業の更なる海外進出が進めば下請企業への発注量は減ることは明らかであり、そうなれば当然、雇用維持が難しくなり、経済は製造業から非製造業へと更に悪くなっていく。
	電気機械器具製造業（経営者）	・この先、輸出はできないし国内では省電力で売れないし、どうしたらいいのかわからないで暮らしている。
	精密機械器具製造業（経営者）	・消費税増税のため、やや悪くなる。
	輸送業（経営者）	・夏場、特に8月は例年売上が落ち込む傾向にある。夏季休暇による稼働日の減少、また、販売不振等が重なり、悪化する。
	輸送業（経営者）	・消費税増税の議論が今盛んに行われているが、なかなか一つの方向に向かっていない。また、消費税が実際上がり始めると国民生活に大変負担が掛かるという点から、先行きはあまり良い方向には向かない。
	通信業（広報担当）	・当面、現在の伸び率が鈍化している傾向が続くため、やや悪くなる。
	金融業（役員）	・欧州の信用不安や米国の景気動向、加えて夏の電力問題や消費税増税の議論等、将来の不安材料には事欠かない状況であり、総じて悲観的な見方となっているため、やや悪くなる。
	金融業（支店長）	・今後の売上、受注のめどが立っていない。消費税増税、電気料金の値上げと、全体的に見ると落ち込み、買い控え又は各企業は経費が出てしまうため、今後も悪い方向に向かう。
	不動産業（経営者）	・人を多く抱えていないため、何とか乗り切ることを考えて営業に励むのみである。
	広告代理店（経営者）	・秋の声が聞こえるところは繁忙期の足音が聞こえ出すころでもあるが、客の財布のひもの締め方を見ていると、良くて今のレベルという判断しかできない。特記できるような出来事も客からは聞こえてこないため、良くて現状という意味で、やや悪くなる。
	広告代理店（従業員）	・当月比で売上減少となる。新規案件も予定されていないため、景気の見通しは悪い。
	広告代理店（営業担当）	・通常であれば、エンターテインメント物の商材は秋の新商品のプロモーション計画が今、活発に動く時期だが、今年は目先だけの話が多い。現在この状況だと、秋のプロモーション買付ができない。直前での広告展開は秋は厳しいと想像されるため、やや悪くなる。
	経営コンサルタント	・円高、消費税増税の議論などにより、海外競争力が更に悪化してくる見込みである。中国などの人件費高騰と日本国内製造業の努力との相互関係で、国内製造にも光が見えてきたが、円高が影響してまた引き離しの影響が出てきており、やや悪くなる。
	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・欧州の信用不安が片付くまでは駄目である。
	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・年度末にも既存契約の減額要請が来たが、別の得意先からも減額を言われている。政局ばかりに熱心にならず、日本の将来のビジョンとそれに連動した現在の景気回復に取り組まなければ、デフレスパイラルは止まらず、中小企業は底辺から崩れていく。
悪くなる	建設業（経営者）	・今後増税政策が実施されるため、悪くなる。
	輸送業（総務担当）	・荷主からの出荷予定はあるが、いつからになるかは不明である。燃料価格が若干下がりが気味だが、まだまだ高い状態で、経営が非常に厳しい状況は変わらない。
	金融業（支店長）	・法人、個人共に資金余剰ではあるが、先行き不透明感から長期的な資金運用は手控える傾向にあるため、悪くなる。
	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（経営者）	・大手の元請からの消費税増税を見込んだと思われる値引き要請が来ているため、悪くなる。
雇用	良くなる	—

関連 (南関東)	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・求人案件が特定の企業だけではなく、広く人材を活用し始めているようである。人材市場がより活性化される可能性があると思うため、やや良くなる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・求人職種に広がりが出てきたため、やや良くなる。
		民間職業紹介機関（経営者）	・中長期的には当社のクライアントはグローバル展開をする生産メーカーが多いため、海外での生産拠点の拡大に向かうとみられるが、国内外で昨年の災害の影響から脱し、供給、需要が戻ってきているため、やや良くなる。
変わらない		人材派遣会社（社員）	・特に景気が数か月先に良くなるという原因を見いだせず、良くなる理由が分からない。燃料費は若干下がってきているが、電力問題やこの夏の暑さといったことも考えると、特に良くなるということはないと言う人が多い。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人が増えても就職、雇用に結び付かない限りは景気回復にはつながらないため、変わらない。
		人材派遣会社（営業担当）	・求人数はわずかに増加傾向だが、以前に比べて簡単に職場を離れるスタッフも増えているようである。採用数が増えそうで増えない状況が続く。
		人材派遣会社（支店長）	・周辺企業に状況を聞くと、新たな人員増を伴う新規事業計画がある企業もあって、全体的に見て厳しさはそれほど感じられないが、2、3か月先の受注見込みについては特に変化はない。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・夏の短期アルバイトなど期間限定の求人がこの数年、減少しているが、今のところ今年も変化はなさそうである。
		職業安定所（所長）	・求職者は減少しているものの、求人の伸びが今一つであり、円高等の要素も考慮すると楽観的な見通しはできない。
		職業安定所（職員）	・今、求人数は増えていて求職者数はやや落ち着いている感があるが、フルタイム勤務の正社員の求人数はそれほど増えていない。またこれから節電など、そういった夏に向けてのいろいろなことがあるため、それらを考えると決して求人数がこのままずっと増えていくとは考えにくい。求職者もこのまま減少がずっと続くとは考えにくいところがあるため、結局は変わらない。
		職業安定所（職員）	・管内企業における雇用調整の情報も散見され、また円高や欧州の信用不安といった不安定要素もあり、回復基調の兆しは見られない。
		職業安定所（職員）	・建設、福祉、医療等サービス関連企業の求人は増えているが、やはり円高の不安があるため、どうしても製造業の求人が伸びてこない状況から、変わらない。
		職業安定所（職員）	・周囲の状況に変化が出ていないため、変わらない。
		職業安定所（職員）	・採用については様子見の零細企業も多いため、変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・求人需要はすぐには衰えない強さを感じるが、どんどん加熱するほどの勢いも感じていないため、変わらない。
		民間職業紹介機関（職員）	・金融やメーカーは、取り巻く環境が厳しいため採用に慎重になっている企業も多いが、その他の業界は特に変化が見られる様子がないため、変わらない。
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・今後公開予定の求人数においても、前年度と比較すれば若干の増加傾向だが、求人公開日の前倒し企業が多くを占めている状況は変わらない。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・景気対策もなく、景気が良くなる見通しが何もない。全体的に採用を控えている企業が多いと感じる状況は変わらない。
やや悪くなる		人材派遣会社（社員）	・改正労働者派遣法の影響で、企業からの短期派遣の依頼が減少する可能性がある。
		人材派遣会社（社員）	・これまでけん引してきた製造業、特に自動車製造での求人陰りに見え始めている。昨今の海外情勢、市況の不安感により、各社で今後の生産等、調整性の動きが見られる。先行き不透明感から求人縮小の状況で、やや悪くなる。
		人材派遣会社（支店長）	・景気の先行きが不透明なため、長期的な雇用につながる紹介や長期派遣の依頼より期間限定の派遣依頼が増えそうである。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・あまり景気が良くなる要素が見当たらない。節電でどこに行っても暑く、あまり出歩かない人が多く、衣類も売れず、外食産業も伸びないようである。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・7、8月は恐らく相当の減少となり、8月のお盆明け以降の盛り上がりのため、じっと我慢というところである。9月に入ってから的大幅増を見込みたいが、かなり落ち込みそうである。
悪くなる		—	—